

遅くなりました。

2点の質問でしたが、返答はまとめて1つにしてみました。

全体学習についてと全体学習を振り返って

当時は、差別の実感がないまま人権学習をしていて、『本当にそんなことをしている人がいるのかなあ』という思いがあるなか取り組んでいました。友達と喧嘩することはあっても、友達を差別をするなんてことは絶対になく、人権学習で勉強するだけで、私には関係のないことと思っていました。

しかし、大きくなるにつれ、世界、知識が広がっていくと、さまざまな差別を実感させられるようになりました。大学で知り合った子や社会人になり知り合った人が平然と差別用語を口にしたりして、なぜそのようなことを口にしなければならないのかと悲しい気持ちになることがあります。

私は、他人と差別することの理由が理解出来ません。差別をする人は他人より優位になりたい為にするのかもかもしれませんが、それにどれ程の得があるのかと思腹立たしくもあり切ない気持ちになります。

それと、私が誹謗中傷をされてもなんとも思いません。人にはどう思われようが、自分は自分であり、私には友達、家族(仲間)という味方がいます。私の性格の問題かもしれないかもしれませんが、それも全体学習で教室や体育館、京都など、たくさんの仲間と討論しあったことで、形成された事だと思えます。

全体学習では人との関わりを学び、人を区別するのではなく、話し合いによってその人のことをより深く知ろうとするようになったといえます。なので、人を偏見で判断することは絶対になくなりました。どんな人でも短時間で“こういう人だ”とは決めつけず理解しようと、全体学習により学び、現在の私の考えになったといえます。

しかし、誹謗中傷を言っている人を注意するまでは出来ていません。一緒に誹謗中傷を言うことはありませんが、話を変えることで精一杯で、そのような態度の自分と相手の言動に悲しい気持ちになってしまいます。〇〇先生が言っていたと思いますが、『ダメと注意出来る人にならなアカン』という人にはなれていません。

最後に、私にとって全体学習は、時に感情的に発言しあうことで、その子がどんな思いなのかを真剣に考えた

場でありました。そこで、人と人の繋がりであったり、接し方など、コミュニケーションの基盤を学習できた場所であり、それが人権を侵害しないことに繋がっていると思います。

以上です。こうして振り返ると、全体学習はとても良い授業だったなあと思います。

乱文であり、申し訳ございません。